

放射線被ばく・・・実は気になっていませんか？

事故から4年と半年

医療と食品放射能測定の現場から

お話し会「放射能は今どうなってるの？」

2015年

9月11日（金）

13:00～15:00

大河原町中央公民館

第2会議室（大河原町字町196）

参加費 無料

主催・お問合せ先：放射能問題支援対策室いずみ

☎ 022(796)5272（平日9時～17時）

E-mail izumi@tohoku.uccj.jp

北村保さん

みんなの放射線測定室「てとてと」

約20年前に、自然の中で安全な食べものを食べたいという思いから、宮城県南の丸森町に移住し自然農法の農業を営む。

311の原発事故後、環境は一変。土地を離れる人がいる中で、自分たちができることを仲間と話し合い、放射能測定器を購入。2011年11月、測定室を立ち上げた。大河原町内の蔵を改装した市民測定室で食と放射能に向き合う毎日を送っている。



話題提供者



山崎知行さん 医師

1984年和歌山県岩出市に上岩出診療所（内科・皮膚科・小児科）を開業。1986年チェルノブイリ原発事故以降、2005年、2006年、2008年チェルノブイリ訪問。医師の立場から放射能汚染・被ばく被害に取り組んでこられ、現地住民や医師との出会いを重ね、学びを続けられています。

福島原発事故以降、定期的に被災地を訪問し、健康不安を抱える親子への健康相談活動を継続している。

震災から4年と半年が過ぎ、震災や放射能の話題がめっきり少なくなりました。

実は気になっているけど、ますます話題にしにくい雰囲気ではありませんか？

「のう胞があると言われた」「食べ物の放射能はどうなってるの？」「畑の野菜を食べているけれど大丈夫？」「将来への影響が心配」など、今さら聞けないこと、これからのこと。

この間、目に見えない放射能と向き合ってきたお二人の方にお話を伺います。

ご質問の時間も設ける予定です。ごゆっくり聞いてみませんか？

託児はございませんが、お子さま連れでもどうぞお気軽にいらしてください。

